

知識集約型社会を支える人材育成事業 令和3年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学等名	新潟大学	整理番号	1
メニュー	メニューⅠ 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	全学分野横断創生プログラム		

1. 進捗状況の概要

- ・ 令和3年度に入り、3つのマイナー学修（学修創生型マイナー、パッケージ型マイナー、オナーズ型マイナー）に基づく「全学分野横断創生プログラム」（以下、「NICEプログラム」という。）が順調に始まっている。各マイナー学修のパッケージ提供数は、学内教員の協力により、令和3年度の目標値18を大きく超え、24となっている。また、各マイナー学修のパッケージには、必要単位数を超える豊富な科目群が用意され、学生の多様なニーズに対応できる配慮がなされている。
- ・ 本事業計画の特徴的な科目の1つである「分野横断デザイン」の履修者数は、令和3年度第1学期を見る限り、当初の見込みを下回っているものの、履修学生からは好評を博しており、本科目の設置意図は十分果たされている。一方、「社会的課題に対し複眼的視野によりアプローチできる人材の育成」という本事業計画の人材育成目標が、履修学生に明確に認識されていない様子も伺えた。ただし、大学スタッフの本事業計画に対する熱意や理解度は非常に高く、こうした問題点は早晩改善されると期待される。
- ・ 学修相談体制として、学修相談室の設置及びアカデミックアドバイザー（以下、「AA」という。）の配置が既に完了しており、学生からの相談受付も始まっている。AAは十分機能しており、相談への対応はホワイトボードを使い学修の方向性を学生から上手に引き出していくなど、非常にレベルの高いものである。
- ・ 以上より、本事業計画の進捗は全体として順調であると判断する。

2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)

- ・ 「分野横断デザイン」は、現在3つのマイナー学修の1つである「学修創生型マイナー」でのみ必修科目となっているが、履修学生のこの科目に対する評価が非常に高いことから、残り2つのマイナー学修を選択する学生の履修についても検討されたい。
- ・ 現在、NICEプログラムの説明は、1年生の新年度ガイダンスのみで行われているが、2年生のガイダンスでも説明することで、より多くの学生にNICEプログラムへの参加を促すことが望まれる。
- ・ マイナー科目を履修する際、メジャー科目との時間割重複により選択できないといった制約が見受けられる。明確な解決策を見出すことは容易ではないかもしれないが、課題意識を持ち続けることが望まれる。また、マイナー科目の中には「前提科目」が存在するものがあり、現状では、学生が個々にシラバスから遡って必要科目を調べている様子が見受けられるが、より容易に把握できる仕組み作りが望まれる。
- ・ 年度進行に伴いAAへの相談件数の増加が予測されることから、施設設備や学修相談体制のより一層の充実を期待したい。
- ・ 新潟大学では、従来から先進的な学修成果可視化の仕組みを持っている。その観点からも、大学全体のディプロマ・ポリシー及び各学位プログラムのディプロマ・ポリシーに対し、本事業計画で構築されるNICEプログラムがどのような関係性を持ち、またディプロマ・ポリシーを達成するにあたりどのような位置付けとなるのかを整理するために、カリキュラムツリーの作成等を含めて、引き続き学内で十分な検討を行っていただきたい。
- ・ 申請時の計画調書や新潟大学が作成している「NICEプログラムパンフレット」にある「文

理複眼」という考え方を社会に対して正確に伝えるとともに、学生にNICEプログラムの意義や育成する人材像が明確に伝わるような周知活動が望まれる。

- ・ 同一の授業において、その科目がメジャー科目となる学生とマイナー科目となる学生との間に教育内容や成績評価基準の差異が生じることのないよう、引き続き授業運営の標準化に努めていただきたい。
- ・ NICEプログラムへの参加を目指し新潟大学へ入学する学生が増加すれば、他大学への波及効果も期待できる。そのためには、高校の進路担当教員や受験生の心を掴む広報が必要であり、更なる広報活動の充実を検討されたい。